

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：事業数	指標の求め方：事業数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：事業参加延人数	指標の求め方：事業数×1事業当たり30人

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計		
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/数)	計画値 7	7	7		7	7	7		7	7	7	7			
		実績値 5	6	5		4	4										
	成果指標1 (単位/人)	計画値 120	120	120		120	120	120		120	120	120	120				
		実績値 16	114	69		52	42										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
			自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった事業があるが、開催した事業の参加者からは概ね好評だった。	自己分析： 概ねコロナ前の参加者数で推移しているが、協力隊が講師を務める事業については、好評のためほぼ倍増している。	自己分析： 出前講座ノルディックウォーキングと歩くスキー教室については、概ね計画通りの成果となった。出前講座については、要望に沿った事業を実施することができた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、事業数・参加者数ともに計画値をほぼ達成できている。参加者数が増えていることから「良好である」と判断した。	自己分析： ノルディックウォーキング教室と歩くスキー教室については、活動指標及び成果指標ともに概ね計画通りの実績を残すことができた。一方で出前講座については、開催の求めがあるかどうか各指標に大きく影響するものであり、今回、各指標の計画値に及ばなかった要因でもある。	自己分析： ノルディックウォーキング教室と歩くスキー教室については当初の予定どおり事業（回数）を実施することができた。これら2教室については、計画値（40）に対し33人の参加があり概ね事業目的を達成できた。一方で出前講座については、実施回数が1回（9人）のみであったことにより、成果指標への影響が顕著に現れる結果となっている。	自己分析： 市民ニーズに応じて実施する出前講座を除いた2事業（ノルディックウォーキング教室と歩くスキー教室）については、当初計画のとおり実施することができており、参加人数や参加者の感想などをもとに自己分析すると、事業として概ね目的を達成することができたため、総合評価を「良好」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続							
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 一定程度目的は達成されているが、事業によっては参加者が固定されているものもあることから、地域おこし協力隊のSNS等も利用しながら周知方法を見直すなどして「現状のまま継続」とする。				R8： 各事業については、毎回一定程度のニーズあること、出前講座については市内の一部団体の活動の一助にもなっていると考えられることから、今後も現状を維持しながら、継続すべきものである。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	少年スポーツ教室開催事業				事業期間	昭和51年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	— —	— —	— —	— —	— —	所管課係	スポーツ振興課振興係
目的 (何のために実施するのか)	スポーツに接する場を増やし、スポーツに関する知識や技術を身につけ場を提供する。 また、スポーツ活動を通して、基礎体力の向上、心身の健全育成をはかる。							手段 (どのような方法で実現するのか)	各競技連盟に、少年スポーツ教室の開催を委託し、各連盟に20,000円の謝礼を払う。 教室は、4種目で、各種目10回開催する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	少年（スポーツ少年団も含む）							成果 (どのような効果が得られるのか)	多くの少年達がスポーツに接する場が増え、スポーツに関する知識や技術を身につけることができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		少年スポーツ教室は、4競技種目（軟式野球、サッカー、剣道、バスケットボール）を、各種目10回スポーツ教室を各競技連盟に委託し開催している。												

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	80,000	320,000	800,000
		予算計上額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	240,000					0	480,000
		実績額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000		160,000					0	400,000
	事業費合計	計画額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	80,000	320,000	800,000
		予算計上額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	80,000	240,000	0	0	0	0	0	480,000
		実績額	80,000	80,000	80,000	240,000	80,000	80,000	0	160,000	0	0	0	0	0	400,000
	事業費予算の内容		スポーツ教室指導謝礼	スポーツ教室指導謝礼	スポーツ教室指導謝礼		スポーツ教室指導謝礼	スポーツ教室指導謝礼	スポーツ教室指導謝礼							
	前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額							
	実績との比較 (増減理由)		同額	同額	同額		同額	同額								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：事業延回数	指標の求め方：種目数（4種目）×開催回数（10回）
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：参加延人数	指標の求め方：参加延人数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/回)	計画値 40 実績値 63	40 61	40 59		40 63	40 67	40		40	40	40	40		
		成果指標1 (単位/人)	計画値 1,100 実績値 1,707	1,100 1,300	1,100 1,449		1,100 1,304	1,100 1,288	1,100		1,100	1,100	1,100	1,100		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている				変わらない						
		総合評価				良好である				良好である						
			自己分析： コロナウイルス 感染症対策を行 いながら、例年 通り実施が出来 た。また、参加 延べ人数が前年 より大幅に増加 した。	自己分析： 事業回数及び参 加人数は計画値 を上回ったが、 参加人数が前年 より大幅に減少 した。	自己分析： 指標上は各実績 値がいずれも計 画値を上回って いることから、 各事業が当初の 計画通り適正に 実施されたと考 えている。	判断理由： 事業回数及び参 加人数ともに計 画値を超えて継 続されており、 一定の成果をあ げていることか ら「良好である 」と判断する 。	自己分析： 各指標がいずれ も計画値を実績 値が上回る結果 となっており、 目的を達成して おり事業として 評価することが できる。	自己分析： 各指標とも前年 度からほぼ横ば いで推移する結 果となっている が、いずれも計 画値を上回って おり、事業とし て評価できるも のである。	判断理由： 各指標に対する 実績値がいずれ も計画値を上 回っており、総 合評価としては 「普通以上」に 値すると評価で きるものである 。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： スポーツ少年団員の知識や技術の向上はもとより、スポーツ活動の 推進につながるものであることから「現状のまま継続」とする。				R8： 実績値や経費の額を踏まえると、最小限の経費で最大の効果を得て いることから「現状のまま継続」すべきものとする。									

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3力年計画				第2次実施3力年計画				第3次実施4力年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3力年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3力年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4力年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	道費	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	地方債	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	その他	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	一般財源	計画額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	368,000	1,472,000	3,680,000
		予算計上額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000					0	2,208,000
		実績額	350,400	345,600	337,200	1,033,200	321,400	283,000		604,400					0	1,637,600
	事業費合計	計画額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	368,000	1,472,000	3,680,000
		予算計上額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000	0	0	0	0	0	2,208,000
		実績額	350,400	345,600	337,200	1,033,200	321,400	283,000	0	604,400	0	0	0	0	0	1,637,600
	事業費予算の内容		体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円		スポーツ協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	スポーツ協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	スポーツ協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円							
	前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額							
実績との比較 (増減理由)		スポーツ少年団員の増加による増額	スポーツ少年団員の減少により減額	団員数の減少に伴う減		少年団の数の減少(6→5)及び団員数の減によるもの	団員数の減少に伴う減									

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：スポーツ協会補助金、スポーツ少年団補助金				指標の求め方：スポーツ協会補助金、スポーツ少年団補助金									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：スポーツ協会登録団体、スポーツ少年団登録人数				指標の求め方：スポーツ協会登録団体、スポーツ少年団登録人数									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 実績値	368,000 350,400	368,000 345,600	368,000 337,200		368,000 321,400	368,000 283,000	368,000		368,000	368,000	368,000	368,000		
		成果指標 1 (単位/団体、人)	計画値 実績値	24団体 228人 22団体 187人	24団体 228人 22団体 143人	24団体 228人 21団体 131人		24団体 228人 21団体 121人	24団体 228人 21団体 79人	24団体 228人		24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					普通である				普通である						
			自己分析： 少年団の登録人数はここ数年ほぼ横ばいの状態であるが、地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考ええる。	自己分析： 少年団の登録人数は前年に比べ減少したが、地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考ええる。	自己分析： 過疎や競技人口の減少などの要因により協会加盟団体数や少年団員数が減少しているものと考えられる。	判断理由： 少子化の影響もあり、少年団の登録人数は減少傾向にあるが、補助金を交付することで少年団の運営維持に繋がっており、子ども達に様々なスポーツを経験する場として大きな役割を果たしていることから、「普通である」と判断する」。	自己分析： 主に過疎や競技人口の減少、指導者の高齢化などの要因が重なって団体数や団員数が減少しており、当支援がなければこの傾向に拍車がかかるものと考えられる。	自己分析： 過疎や高齢化、少子化など様々な要因により、スポーツ協会加盟団体及び登録員数は減少傾向にあると考えている。	自己分析： 成果指標の実績が減少しているものの、従来から各補助金の交付により各団体の自主的なスポーツ活動の活性化に寄与しているものである。当事業を実施することについては、特に問題はないと考えられることから、総合評価を「普通」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
		今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考えることから、活動を支えるために継続した助成、連携が必要であることから「現状のまま継続」とする。				R8： 市内におけるスポーツ活動の普及促進を図るためには、スポーツ協会との連携は不可欠であり、当事業を現状のまま継続して実施することにより、今後もさらに連携強化を図り、行政としての支援を実施していきたい。				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：補助金申請件数				指標の求め方：補助金申請件数								
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：全道大会等出場者延人数				指標の求め方：全道大会等出場者延人数								
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画				第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計
事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/件)	計画値	50	50	50		50	50	50		50	50	50	50	
			実績値	13	14	9		17	18							
		成果指標 1 (単位/人)	計画値	50	50	50		50	50	50		50	50	50	50	
			実績値	59	61	27		95	89							
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている					
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている				変わらない					
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				少し上がっている					
		総合評価					良好である				良好である					
			自己分析： 競技レベルの高い全道・全国大会参加への支援により、競技力の向上やスポーツへの関心、参加意欲向上が図られている。	自己分析： 競技レベルの高い全道・全国大会参加への支援により、競技力の向上やスポーツへの関心、参加意欲向上が図られている。	自己分析： 年度ごとに指標の実績値に増減があるものの、全道大会や全国大会並びに国際大会への出場者に対し経費面での支援を行うことで、スポーツ活動を奨励することができおり行政の役割を果たすことができている。	判断理由： 補助金申請件数は計画値を下回っているが、中には全国大会での上位入賞や国際大会の出場者も出るなど、補助金を交付することで競技者の負担軽減を図り、競技力の向上に繋がっていることから「良好である」とする。	自己分析： 今年度は活動指標の実績値が計画値を下回ったものの、実績だけを見れば令和3年度以降で最も高い値を残すことができた。申請件数では前年比で8件の増となっており、スポーツの振興に寄与していると判断できる。	自己分析： 活動指標は、第1年次以来で最高の件数となっており、補助金の交付が関係者のスポーツ大会の出場等の奨励に大きく寄与しているものと考えている。成果指標についても、計画値を上回る実績となっており、事業として評価できる。	自己分析： 判断理由： 補助実績額は前年度額を下回っているものの、補助規程の範囲内で可能な限りの内容で補助決定をしている。各種スポーツ大会への出場や開催を前年度を上回る件数で補助したことは、総合評価では「良好」以上の評価に値するものである。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性					拡大				拡大					
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 市外の団体に所属する市民は補助の対象外となっているが、市外の団体に所属する市民が全道・全国大会へ出場していることや、市内にはないスポーツ団体での出場もあることから、市外団体に所属する市民も対象となるよう改善を図る必要があることから「拡大」とする。				R8： 引き続き市外の団体に所属する市民を補助対象とする改正（補助内容の拡大）を視野に入れ、申請者等の状況を注視していくこととする。				R10：				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：補助金支出額（円）	指標の求め方：補助金支出額（円）
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：参加チーム、参加者数	指標の求め方：146チーム×6人

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値	632,000	632,000	632,000		632,000	632,000	632,000		632,000	632,000	632,000	632,000		
			実績値	0	632,000	632,000		632,000	632,000	632,000							
	指標	成果指標 1 (単位/チーム、人)	計画値	146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		
			実績値	0	114チーム 634人	121チーム 661人		128チーム 686人	124チーム 676人								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
				自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 参加チーム数・人数ともに計画値を下回っているが、全道規模の大会として位置づけられている。また、全道から集まった中学生剣士の日頃の練習の成果を発揮するとともに、技の競い合いと心の鍛錬に効果があると思われる。	自己分析： 成果指標の実績値は計画値を下回っているものの、当日の会場の様子などから行事が活況であることを確認しており、技の競い合いとともに選手間の交流が図られるなど、総合的に判断し補助金が有効活用されていると判断できる。	判断理由： 毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着していることから「良好である」とする。	自己分析： 成果指標の実績値が計画値を下回っているものの、年々実績値が上がっている状況である。達成度、成果、効率性のいずれを見ても評価に値する。	自己分析： 事業の目的、手段、成果は当初の予定どおりであり、特に問題はない。	自己分析： 当大会は毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着している。剣道連盟との協働事業にも位置付けている大会であり、補助金を交付することで大会運営が円滑に行われており、総合評価は「良好」に値するものである。	判断理由： 自己分析：毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着していることから「現状のまま継続」とする。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性						現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着していることから「現状のまま継続」とする。				R8： 中学生剣士の全道大会として定着しており、円滑な大会運営のためにも補助を継続して行う必要があることから「現状のまま継続」とする。				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：交付金支出額				指標の求め方：交付金支出額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：参加人数				指標の求め方：参加人数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 567 実績値 297	567 378	567 351		567 486	567 432	567		567	567	567	567		
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 1,400 実績値 530	1,400 592	1,400 724		1,400 763	1,400 696	1,400		1,400	1,400	1,400	1,400		
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない						
		総合評価				普通である				普通である						
			自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止とした競技団体があったため、例年に比べて参加者は減少しているが、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与している。	自己分析： 様々な競技で催しが実施されており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与している。	自己分析： 競技人口が年々減少するなどして、大会開催が困難となる状況があり、そのことが指標に現れている。しかし、各競技種目ごとに様々な事情を抱えながらも大会開催とその運営にかかわる関係者がおり、官民が一体となり、協働でスポーツ活動を奨励するものである。	判断理由： 毎年恒例のスポーツ行事として定着し、各競技団体が主体となつて大会等を開催している。様々な競技で実施されており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与していることから「良好である」とする。	自己分析： 本年度は競技人口の減少に加え、活動そのものを休止する団体も出てきており、取り巻く環境が厳しいものとなっているが、各指標とも前年度を上回る実績を残すことができており、今後も同様の補助を継続して行っていく必要があると考えている。	自己分析： 各指標とも計画値及び前年度比較でもそれぞれ下回る結果となった。大会開催日程を調整する際に参加者（参加団体）との都合が合わず、やむを得ず開催を中止する状況もあり、このことが各指標に影響したものと分析している。	自己分析： 日程調整上の問題から大会を中止したことを踏まえると、前年度程度の達成度、成果があったと考えている。このことから総合評価を「普通」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 毎年恒例のスポーツ行事として定着し、各競技団体が主体となつて大会等を開催しており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与していることから「現状のまま継続」とする。				R8： 交付金の交付のほか、各大会が円滑に開催されるよう、体育施設を管理する立場からも可能な限り配慮するなどして連盟関係者と連携をとりながら、引き続き当事業を継続することとしたい。				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	海洋スポーツ振興事業				事業期間	昭和52年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	スポーツ振興課振興係
目的 (何のために実施するのか)	施設を開放し、海洋スポーツの普及と市民の体力づくりを推進する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	平日は団体利用（申込必要）とし、土・日曜日は一般開放する。また、常時、指導員を配置し、利用者を指導する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民及び小中高生の体験学習。							成果 (どのような効果が得られるのか)	いつでも安心して利用できるもので、利用が促進される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		昭和52年、北光公園内にB & G財団の補助を受け艇庫を開設し、指導員を配置して海洋スポーツが内陸でも楽しめる場として開放している。												

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	1,443,000	858,000	1,478,000	3,779,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	4,887,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	6,516,000	15,182,000
		予算計上額	1,443,000	1,563,000	585,000	3,591,000	2,476,000	1,929,000	1,858,000	6,263,000					0	9,854,000
		実績額	154,195	1,243,199	501,522	1,898,916	1,609,933	981,340		2,591,273					0	4,490,189
	事業費合計	計画額	1,443,000	858,000	1,478,000	3,779,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	4,887,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	1,629,000	6,516,000	15,182,000
		予算計上額	1,443,000	1,563,000	585,000	3,591,000	2,476,000	1,929,000	1,858,000	6,263,000	0	0	0	0	0	9,854,000
		実績額	154,195	1,243,199	501,522	1,898,916	1,609,933	981,340	0	2,591,273	0	0	0	0	0	4,490,189
	事業費予算の内容		指導報償旅費 需用費 車借上料 備品購入費	指導報償旅費 需用費 車借上料 備品購入費	指導報償旅費 需用費 車借上料 備品購入費		指導報償旅費 需用費 車借上料 備品購入費 会議出席負担金	指導報償、旅費、 需用費、車借上料、 会議出席負担金、 【BG】特別旅費、 健診委	指導報償、旅費、 需用費、車借上料、 会議出席負担金、 【BG】特別旅費、 健診委							
	前年度予算との比較 (増減理由)		B&G指導員研修 旅費等の増	B&Gスポーツ交流 交歓会開催に係る 旅費の減、備品購入 費の増	B&G指導員研修 旅費等の減		旅費の増、車借上料 の増、備品購入費の 増、会議出席負担金 の増	旅費の減、使用料 料及び賃借料の減、 備品購入費の減	報償費の増、旅費の 減、需用費の減、 車借上料の増、備品 購入費の増、会議出 席負担金の減、BG特 別旅費の増							
	実績との比較 (増減理由)		新型コロナウイルス 感染症により、B&G 指導員研修及びB&G スポーツ大会が中止 となったため	車借上料、備品 購入費の減	指導報償、車借 上料の減		報償費、旅費、 使用料及び賃借料、 備品購入費、 負担金補助及び 交付金の減	BGインストラク ター養成研修への 参加を要さな かったことが主 要因								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：開放日数				指標の求め方：開放日数																				
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用人数（人）、1日当たりの利用人数（人）				指標の求め方：利用人数／開放日数																				
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計											
				第 1 年次 (3年度)		第 2 年次 (4年度)		第 3 年次 (5年度)		実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)		第 5 年次 (7年度)		第 6 年次 (8年度)			実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)		第 8 年次 (10年度)		第 9 年次 (11年度)		第10年次 (12年度)		実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/日)		計画値		52		52		52		52		52		52		52		52		52		52				
				実績値		27		36		43				52		34												
		成果指標 1 (単位/人、人)		計画値		6,300人 121人		6,300人 121人		6,300人 121人				6,300人 121人		6,300人 121人		6,300人 121人		6,300人 121人		6,300人 121人						
				実績値		1,815人 67人		5,531人 153人		7,028人 163人				0,526人 202人		3,927人 116人												
	評価内容		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)								ほぼ達成されている								ほぼ達成されている									
			事業の成果 (成果指標をもとに評価)								上がっている								少し上がっている									
			事業の効率性 (事業費に対する成果)								上がっている								上がっている									
			総合評価								良好である								良好である									
			自己分析： 新型コロナウイルス感染症により、各種事業が中止となったことをはじめ、緊急事態宣言により艇庫の開放日も減少した。それに伴い、利用者も減少している。		自己分析： 悪天候により利用中止もあったが、新型コロナウイルス感染症発生前の利用者数に戻りつつある。		自己分析： 活動指標については、実績値が計画値に達していないものの、コロナ禍の影響を受けながらも3年度以降は利用者が回復傾向にあり、令和5年度は成果指標の実績値が計画値を上回った。		判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、学校による宿泊学習の際の体験学習としての利用が多いことから、新たなニーズへの対応として近年人気のあるサップを導入するなど、利用団体からは好評をいただいていることから「良好である」とする。		自己分析： 活動指標及び成果指標ともに令和3年度以降は順調に伸びている。特に成果指標は計画値を大幅に上回る実績を残すことができ、事業としては大きく評価できるものであった。		自己分析： 天候不順により各指標とも計画値を下回った。		自己分析： 天候不順により各指標とも計画値を下回った。		判断理由： 達成度は、6－7年度ともほぼ計画値に近いものであり、7年度は天候不順が原因となって計画値を下回ったものである。成果は、6年度に大きく計画値を上回った。7年度に計画値を下回ったのは天候不順によるものであるため。効率性は、体験できる船の種類を増やすことで事業の進め方などを工夫したため、効率性が上がったという評価をした。		自己分析： 達成度は、6－7年度ともほぼ計画値に近いものであり、7年度は天候不順が原因となって計画値を下回ったものである。成果は、6年度に大きく計画値を上回った。7年度に計画値を下回ったのは天候不順によるものであるため。効率性は、体験できる船の種類を増やすことで事業の進め方などを工夫したため、効率性が上がったという評価をした。		自己分析： 達成度は、6－7年度ともほぼ計画値に近いものであり、7年度は天候不順が原因となって計画値を下回ったものである。成果は、6年度に大きく計画値を上回った。7年度に計画値を下回ったのは天候不順によるものであるため。効率性は、体験できる船の種類を増やすことで事業の進め方などを工夫したため、効率性が上がったという評価をした。		自己分析： 達成度は、6－7年度ともほぼ計画値に近いものであり、7年度は天候不順が原因となって計画値を下回ったものである。成果は、6年度に大きく計画値を上回った。7年度に計画値を下回ったのは天候不順によるものであるため。効率性は、体験できる船の種類を増やすことで事業の進め方などを工夫したため、効率性が上がったという評価をした。		判断理由： 達成度は、6－7年度ともほぼ計画値に近いものであり、7年度は天候不順が原因となって計画値を下回ったものである。成果は、6年度に大きく計画値を上回った。7年度に計画値を下回ったのは天候不順によるものであるため。効率性は、体験できる船の種類を増やすことで事業の進め方などを工夫したため、効率性が上がったという評価をした。			
	今後の方向性								現状のまま継続								現状のまま継続											
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 利用者は天候に作用されることが多く、年単位で評価することは難しいが、着実に市内外に艇庫の事業が浸透しつつあり、利用者からは好評をいただいていることから「現状のまま継続」とする。		R8： 利用者は天候に作用されることが多い。これまでの取り組みが実り着実に市内外に艇庫の事業が浸透、普及しつつあり、利用者からは好評をいただいている。今後も事業を継続実施する必要があるため「現状のまま継続」とする。		R10： 利用者は天候に作用されることが多い。これまでの取り組みが実り着実に市内外に艇庫の事業が浸透、普及しつつあり、利用者からは好評をいただいている。今後も事業を継続実施する必要があるため「現状のまま継続」とする。																					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：事業数				指標の求め方：事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：事業延べ参加人数				指標の求め方：事業数 1 回 × 3 9 0 人									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1		
		実績値	0	0	1		1	1									
	成果指標 1 (単位/人)	計画値	390	390	390		390	390	390		390	390	390	390			
		実績値	0	0	306		336	371									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されていない				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない				少し上がっている						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっていない				上がっている						
		総合評価					普通である				普通である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 令和元年度大会以来4年ぶりの開催となり、「参加者離れ」が心配される状況であったが、300人を超える参加者があったことはある程度の評価に値するものと考えている。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の発生以降、大会は中止となっており、判断することができないことから「普通である」とする。	自己分析： 成果指標の実績値が計画値には及ばないものの前年を上回っており、次年度以降の早いうちに感染症の影響を受ける前（令和元年度）の水準（389人）まで回復することを期待する。事業自体は、大きなトラブルや負傷者等が発生することもなく終了しており、交付金を有効活用できたものと考えている。	自己分析： 成果指標の実績値が計画値には及ばないものの前年を上回る結果となった。	自己分析： 【達成度】 予定どおり実施済のため。 【成果】 5年度以降右肩上がりで推移しているため。 【効率性】 物価が上がる一方、据え置かれている財源を節約しながら準備、運営に当たっているため効率性は高い。 財源確保、協賛企業の状況、害獣対策、コース環境等を踏まえ総合評価を「普通」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					手段の見直し				手段の見直し							
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： コース周辺は熊の出没が多く、ランナーの安全を確保しながら大会を開催することが難しくなっていることから、コース変更等も含めた検討が必要のため「手段の見直し」とする。				R8： 頻出している熊への対策、コース環境、運営経費などの状況を踏まえ、場合によっては「手段の見直し」や一時休止といったことも検討すべきであるため、今後の方向性を「手段の見直し」とする。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名		いきいき元気推進事業				事業期間	令和3年度 ～ 令和12年度								
事業性質区分		新規・継続	新規(予算)	建設・建設外		第7期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	1-2-1	1-5-1	- -	- -	- -	所管課係	スポーツ振興課振興係
目的 (何のために実施するのか)		保健部局等との連携による、健康・体力づくり							手段 (どのような方法で実現するのか)	親子でのスポーツレクリエーション活動 専門のインストラクターによる生活習慣改善指導等					
対象 (誰・何を対象としているのか)		レクリエーション活動等に参加できる幼児から高齢者まで（生活習慣改善対象者を含む）							成果 (どのような効果が得られるのか)	健康寿命の延伸につながる					
事業開始時の状況・これまでの経緯															

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国	費 計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道	費 計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計 画 額	7,758,000	7,558,000	7,558,000	22,874,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	42,963,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	57,284,000	123,121,000
		予算計上額	7,758,000	12,264,000	12,501,000	32,523,000	14,321,000	15,643,000	15,985,000	45,949,000					0	78,472,000
		実績額	6,917,089	9,751,236	11,507,340	28,175,665	10,801,281	15,053,011		25,854,292					0	54,029,957
	事業費合計	計 画 額	7,758,000	7,558,000	7,558,000	22,874,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	42,963,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	14,321,000	57,284,000	123,121,000
		予算計上額	7,758,000	12,264,000	12,501,000	32,523,000	14,321,000	15,643,000	15,985,000	45,949,000	0	0	0	0	0	78,472,000
		実績額	6,917,089	9,751,236	10,159,406	26,827,731	10,801,281	15,053,011	0	25,854,292	0	0	0	0	0	52,682,023
	事業費予算の内容	報酬 旅費 需用費 借上料 備品購入費	報酬 旅費 需用費 借上料 備品購入費	報酬 旅費 需用費 借上料 備品購入費			報酬、職員手当等、共済費、旅費、需用費、手数料、健康診断委託料、使用料及び賃借料 等	報酬、職員手当等、共済費、旅費、需用費、手数料、健康診断委託料、使用料及び賃借料 等	報酬、職員手当等、共済費、旅費、需用費、手数料、健康診断委託料、使用料及び賃借料 等							
	前年度予算との比較 (増減理由)			地域おこし協力隊を2-3名に増員したことによる増	職員手当等の増		職員手当等の増、旅費の増、消耗品費の増、健康診断委託料の増、建物借上料の増 等	国の補助内容の改正に伴う人件費（報酬、職員手当、共済費、負担金）の増	人件費関係予算の増							
	実績との比較 (増減理由)			地域おこし協力隊の1名がアパートを借りなかったことによる建物等借上料の減	手数料の減	費用弁償と期末手当及び手数料の減	隊員が年度の途中で退職したことに伴う報酬、建物借上料、手数料の減	職員手当、旅費、需用費、役務費の減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：事業延べ回数				指標の求め方：事業延べ回数											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用者延べ人数（レクリエーション活動を通してトレーニングルームを利用するようになった者も含む）															
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計		
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計			
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	12	12	12		12	12	12		12	12	12	12				
			実績値	1	50	64		75	72										
		成果指標 1 (単位/人)	計画値	480	480	480		480	480	480		480	480	480	480				
			実績値	16	441	732		1,198	1,223										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				達成されている								
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている				変わらない								
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				変わらない								
		総合評価					良好である				極めて良好である								
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 10月のトレーニングルーム開設準備や、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響もあり、事業回数や利用者は大きく下回ったが、参加者からは好評だった。	自己分析： 協力隊が「いきいきシニアプログラム」の講師を行うこととなり、事業回数の計画値を大幅に上回った。	自己分析： 活動指標については、引き続き地域おこし協力隊が「いきいきシニアプログラム」の講師を担当することに伴い計画値を上回っている。成果指標については、事業回数の増加に伴い実績値が計画値を上回っている。	判断理由： 協力隊がトレーニングルームの運動指導だけではなく、「いきいきシニアプログラム」の講師や独自事業として講座を行うことで、市民の健康増進に繋がっていることから「良好である」とする。	自己分析： 「いきいきシニアプログラム」の講師を担当していることや出張及び企画教室の増が活動指標の増の要因となっている。1年を通して企画教室を開催しているほか、トレーニングルームの利用者が順調に伸びていることが成果指標の実績値に現れている。	自己分析： 前年と比較すると、指標だけを見るとほぼ横ばいの実績となっているが、すでに最高レベルの実績で推移しているものである。	判断理由： 限られた時間と人員により、可能な限りの活動を行い最大限の成果を出している。各指標を見ると計画値を大きく上回る実績をあげているほか、普段の活動の様子を見ても着実に功績をあげている。トレーニング利用者からも好評の声が寄せられていることから総合評価は「極めて良好」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
	今後の方向性						拡大				現状のまま継続								
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 現状の活動に加えて、様々なニーズに合わせた講座の実施や他部署と連携した健康増進を図るための取組みをさらに進めていくため「拡大」とする。				R8： 当事業を今後も継続して実施しようとする際の唯一の課題が後任の人材確保である。トレーナー（協力隊）の一部を正職員とすることなどを含めた検討が必要と考えている。				R10：							

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名		レクリエーション運動・各種スポーツ教室開催事業				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	新規(掲載)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	1-3-1	1-5-1	-	-	-	-	所管課係	スポーツ振興課振興係
目的 (何のために実施するのか)	レクリエーション運動やスポーツ教室を通じて、健康的で地域との交流がある豊かな生活を送れるようにする。また、障がい者の参加も積極的に受け入れ交流の場を広げる。							手段 (どのような方法で実現するのか)	講師を招き、レクリエーション運動や各種スポーツ教室を開催する。障害の程度に合わせ参加を促す。第1次実施計画においては地域おこし協力隊を講師として活用することで「いきいき元気推進事業」との連携をはかり、事業を地域に定着させる。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	レクリエーション及びスポーツ教室に参加できる市民。							成果 (どのような効果が得られるのか)	一般の市民はもとより、障がい者の基礎体力の向上などを促すとともに、地域の障がい者への理解を深め、交流が活性化する。また、これまで体育館を利用していなかった障がい者及び関係の団体の利用につながる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯		令和3年度に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より、同大会で使用したシッティングバレー及びボッチャの床材が無償譲渡されたことから、各競技を行う際の必要な備品を整備した。													

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	一 般 財 源	計 画 額	0	0	0	0				0					0	0
		予算計上額	0	0	0	0	340,000	150,000	240,000	730,000					0	730,000
		実 績 額	0	0	280,000	280,000	340,000	150,000		490,000					0	770,000
	事業費合計	計 画 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		予算計上額	0	0	0	0	340,000	150,000	240,000	730,000	0	0	0	0	0	730,000
		実 績 額	0	0	280,000	280,000	340,000	150,000	0	490,000	0	0	0	0	0	770,000
	事業費予算の内容						講師謝礼 旅費 宿泊費	講師謝礼(交通 費込)	講師謝礼(交通 費込)							
	前年度予算との比較 (増減理由)						皆増	謝礼単価の減と 宿泊費を必要としなかったこと によるため	種目の変更により、必要な経費 も異なるため。							
	実績との比較 (増減理由)				当初予算には計上 しておらず補正予算により対 応したため皆増となった。		同額	同額								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：事業数				指標の求め方：事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：事業延べ参加人数				指標の求め方：事業数 1 回 × 3 0 人									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 2	計画値 1	実績値 2	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1			
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 30	実績値 29	計画値 30	実績値 77	計画値 30	実績値 59	計画値 30	実績値 59	計画値 30	実績値 30	計画値 30	実績値 30			
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				達成されている							
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている				上がっている							
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている				上がっている							
		総合評価				良好である				良好である							
			自己分析： 東京オリンピック・パラリンピックで使用した床材を使用した、パラスポーツであるシッティングバレーとポッチャ競技の体験会を行い、参加者からは好評だった。	自己分析： 昨年に引き続きポッチャ競技の体験会を行い、障がい者の方も含めた老若男女で交流ができ、参加者からは好評だった。	自己分析： 元バスケットボール日本代表で東京2020オリンピック銀メダリスト 三好南穂氏を講師としてバスケットボールクリニック（教室）を開催し、実技指導や、質疑応答、サイン会や記念撮影を行った。参加者による肯定的な意見が多数あり、事業として評価できるものであった。	判断理由： 親子わいわいすぽーつらんどやパラスポーツ体験会を開催し、老若男女や障がい者の方でも運動に触れることができる環境を作ることができていることから「良好である」とする。	自己分析： 教室（種目）の選定に当たり、スポーツ協会と連携し、協同で「バレーボール教室」の開催に至ったことは評価に値する。教室の内容についてもレベルの高い技術とわかりやすい説明で参加者にとっては有意義なものになったものと考えている。	自己分析： 外部講師を招聘し開催するスポーツ教室は「野球」を開催し、44人の参加があった。また、11月にはインクルーシブスポーツ体験会を初開催し、15人の参加があった。各事業ともに参加者からは肯定的な意見が寄せられた。	判断理由： 6-7年度の自己分析結果を踏まえ、と事業が概ね成功したと考えられる。各指標の計画値と実績値を照らし合わせると、達成度は「達成されている」、成果は「上がっている」と判断できる。スポーツ教室については、高い技術を持った講師を招聘することにより、内容が充実した教室の開催に至っており、効率性は「上がっている」と判断できる。総じて「良好である」と評価した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続							
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 「現状のまま継続」しつつ、これまで体育館を利用することが少なかった障がい者や関係団体にも使用してもらえるよう働きかけを行っていく。				R8： 6-7年度の自己分析結果を踏まえ、また、スポーツ推進計画との整合性を図る意味でも、スポーツ教室については今後も継続して実施していくことが必要と考えられる。ポッチャをはじめとするインクルーシブスポーツ（ニュースポーツ）体験会については、幅広い世代で男女を問わず気軽に楽しむことができることから、スポーツ教室と同様、今後も継続して実施すべきものと判断した。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名		艇庫整備事業				事業期間	令和5年度 ～ 令和5年度								
事業性質区分		新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	3-5-2	他に関連する基本事業	--	--	--	--	所管課係	スポーツ振興課海洋センター管理係	
目的 (何のために実施するのか)		体育施設の整備充実に努めることにより、誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境を整える。							手段 (どのような方法で実現するのか)	海洋センター艇庫やカヌー乗り場の整備を行う。現在はカヌーが半分水に漬かった状態でカヌーの乗り降りを行っており、障がい者や高齢者の乗り降りには不便であるため、カヌーを水場にスライドさせるためのマット等を敷き、陸地での乗り降りを可能にする。					
対象 (誰・何を対象としているのか)		海洋センター艇庫利用者。特に障がい者や高齢者等のカヌーの乗り降りが困難である利用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	施設の長寿命化が図られ、効果的な維持管理ができるとともに、カヌー乗場を改修することで、乗り降りが楽になり障害者や高齢者の施設利用につながる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯															

【DO】

実績

(単位：円)

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額					0				0					0	0
		予算計上額					0				0					0	0
		実績額					0				0					0	0
	道費	計画額					0				0					0	0
		予算計上額					0				0					0	0
		実績額					0				0					0	0
	地方債	計画額					0				0					0	0
		予算計上額					0				0					0	0
		実績額					0				0					0	0
	その他	計画額					0				0					0	0
		予算計上額					0				0					0	0
		実績額					0				0					0	0
	一般財源	計画額			1,100,000		1,100,000			0	0					0	1,100,000
		予算計上額				0	0	0	612,000	0	612,000					0	612,000
		実績額				0	0	0	611,600		611,600					0	611,600
	事業費合計	計画額	0	0	1,100,000		1,100,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,100,000
		予算計上額	0	0	0	0	0	0	612,000	0	612,000	0	0	0	0	0	612,000
		実績額	0	0	0	0	0	0	611,600	0	611,600	0	0	0	0	0	611,600
	事業費予算の内容							乗降場整備は課題事項であり、今年度は応急措置をとりながら運営していくこととなる。	工事請負費	令和7年度に工事を完了したため、本年度は計画なし。							
	前年度予算との比較 (増減理由)								皆増	令和7年度に工事を完了したため、本年度は計画なし。							
	実績との比較 (増減理由)				明確な整備計画がなく、事業が先送りとなっている現状である。			今年度は予算計上なし	予定どおり工事を実施した。								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：	—	指標の求め方：活動指標の設定が困難であることから設定しない											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：	—	指標の求め方：成果指標の設定が困難であることから設定しない											
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 （3年度）	第 2 年次 （4年度）	第 3 年次 （5年度）	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 （6年度）	第 5 年次 （7年度）	第 6 年次 （8年度）	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 （9年度）	第 8 年次 （10年度）	第 9 年次 （11年度）	第10年次 （12年度）	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 （単位/ ）	計画値													
			実績値													
	指標	成果指標 1 （単位/ ）	計画値													
			実績値													
	評価内容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）				達成されていない				達成されている						
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）				変わらない				上がっている						
		事業の効率性 （事業費に対する成果）				変わらない				上がっている						
		総合評価				普通である				極めて良好である						
			自己分析： 総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：	自己分析： 予算計上がなく未実施である。今後、建設部との協議を進めながら必要に応じ予算要求を行い、整備を進めていくこととなる。	判断理由： 事業先送りとしており、評価が難しいことから「普通である」とした。	自己分析： 令和 7 年度以降の施設の管理運営を見通すため、早急に改修を行う必要があり、令和 7 年度に関係予算を計上したところである。	自己分析： 予定どおり工事を実施し、環境改善を図ったところである。	自己分析： 判断理由： 懸案であった設備環境を改善し、利用者及び施設管理者の利便性や安全性を高めることができたことから「極めて良好」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性				手段の見直し				完了							
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： 令和7年度にB&Gスポーツ交流交歓会【水上の部】を開催予定であり、乗り場の整備を行う予定。				R8： 令和 7 年度に実施した工事をもって完了したため。				R10：					